

ンマカメラ (ADAC Vertex) で L 字型 180° 収集を行った。全過程で短時間の自動処理が可能で、きわめて良好な再現性を示した。前処理フィルターの cut off 値は 0.45 が適当であった。90° 欠損で心筋描出は適正で、180° 欠損では前壁欠損で左室容積値は高値を、下後壁欠損では低値を示した。

9. $^{201}\text{TlCl}$ および $^{123}\text{I-MIBG}$ で異常集積を認めた好酸球性心筋炎の 1 例

末永 一路 (県立尾張病院・放)
 岩崎 浩康 吉本 学 (同・放技)
 津田 誠 岩田 一城 大野 淳
 吉田 幸彦 岡本 光弘 (同・循内)

症例は 21 歳、男性。主訴は心窩部痛と呼吸困難。'96 年 10 月 18 日入院時 ECG で下壁梗塞は否定できなかったが、末梢血好酸球が高値を呈した。入院時 $^{201}\text{TlCl}$ で心尖下壁の集積が不良であったが、 $^{99\text{m}}\text{Tc-PYP}$ で有意な取り込みはなかった。11 月 5 日心筋生検で心筋への好酸球浸潤が認められ、好酸球性心筋炎と診断された。プレドニン投与により症状は改善し、末梢血好酸球も正常値に回復し、11 月 25 日退院。プレドニンは漸減投与し、外来にて経過観察。'97 年 2 月 4 日の $^{201}\text{TlCl}$ ではほとんど異常を認めず、 $^{123}\text{I-MIBG}$ で心尖部下壁に明らかな集積の低下を認めた。しかし、この時の心筋生検所見では炎症性変化はほとんど見られず、また臨床経過も良好である。

10. Ga シンチが診断に有用であった心臓原発悪性腫瘍の一例

岩野 信吾 田所 匡典 小林 英敏
 石垣 武男 (名大・放)
 牧野 直樹 廣田 秀輝
 (トヨタ記念病院・放)
 熊谷 亮 上原 晋 稲垣 春男
 (同・循)

Ga シンチで診断可能であった稀な心臓原発悪性リンパ腫症例を経験したので報告した。[症例] 68 歳、男性。胸痛と呼吸困難を主訴に受診し、心嚢液・胸水貯留を認めたため入院となった。胸部 CT で右心室前壁～右房に腫瘤を認め、 ^{201}Tl シンチで比較的高度な集積が見られた。 ^{67}Ga シンチを施行したところ非

常に高度な集積像を認め、全身検索にてほかに病変が見られないことから、心臓原発悪性リンパ腫を疑った。胸腔鏡下心臓生検で悪性リンパ腫 (diffuse large, B) の診断が確定した。CHOP 療法で PR が得られた。Ga シンチと Tl シンチは鑑別診断に有用と思われた。

11. 肺腺癌の病理所見と FDG 集積との関連性

綾部浩一郎 田村智奈美 高橋 直樹
 釘抜 正明 谷口 充 玉村 裕保
 大口 学 東 光太郎 興村 哲郎
 山本 達 (金沢医大・放)
 上田 善道 (同・病理)
 関 宏恭 (金沢循環器病院)

末梢型肺腺癌の FDG 集積と術後病理所見 (胸膜浸潤、脈管内浸潤、リンパ管内浸潤、リンパ節転移) とを対比し、末梢型肺腺癌の悪性度と FDG 集積との関連性について検討した。対象は、術前に FDG-PET を施行した末梢型肺腺癌手術例 33 症例 (35 病巣) である。FDG-PET は、FDG 111-148 MBq 静注 40 分後に撮像した。肺癌の FDG 集積程度は、視覚的に縦隔の radioactivity を指標として 5 段階に分類し、さらに SUV を算出した。その結果 FDG 集積が高い末梢型肺腺癌は胸膜浸潤、リンパ管内浸潤、あるいはリンパ節転移の頻度が高い傾向が認められた。このことから、FDG-PET により末梢型肺腺癌の悪性度を非侵襲的にある程度評価できる可能性が示唆された。

12. ガリウムシンチにて集積を認めた空腸癌の一例

田口 美紀 土田 龍郎 高橋 範雄
 石井 靖 (福井医大・放)

症例は 56 歳男性。貧血、便潜血にて胃、大腸の精査施行するも異常なく、小腸連続透視にて狭窄性病変が疑われ、Ga シンチにて 24 時間後も移動しない強い集積を認め、小腸悪性腫瘍が疑われた。有管法では空腸に全周性狭窄を認めた。術後診断は高分化腺癌、T4N0M0 で深達度 SE であった。大腸癌への Ga の集積については文献的報告があり、大腸癌の約 70% で陽性になり、腫瘍細胞そのものに集積すると考えられている。深達度が深いほど、腫瘍が大きい